

日本女子大学大学院文学研究科
英文学専攻平成 23 年度開講科目

一博士課程前期一

近代英文学講義 I-1

前期

2 単位

佐藤 達郎

【授業の概要】

イギリス・ルネサンス文学研究。Shakespeare, *Macbeth* を精読するとともに、第一次・二次資料の取り扱い方について検討する。

【授業の到達目標及びテーマ】

授業で取り扱う Shakespeare の詩と散文の構造を理解できる。

OED の引き方に習熟する。

【授業計画】

1. Introduction: Shakespeare のテキストと辞書の引き方について
2. *Macbeth* 1 幕 1 場、1 幕 2 場
3. 1 幕 2 場
4. 1 幕 3 場 l. 1-69
5. 1 幕 3 場 l. 70-142
6. 1 幕 3 場 l. 143-155、1 幕 4 場解説
7. 1 幕 4 場
8. 1 幕 5 場
9. 1 幕 6 場
10. 1 幕 7 場
11. 2 幕 1 場
12. 2 幕 2 場
13. 文法事項の確認
14. 第 2 次文献の解説
15. まとめ

【成績評価の方法】

日常の講読の成果によって評価する。

【使用テキスト】

初回の授業でプリントを配付する。

【参考書(参考資料等)】

The Riverside Shakespeare. Ed. G. Blakemore Evans. 2nd ed. Boston: Houghton, 1997.

Sinfield, Alan, ed. *Macbeth*. New Casebooks. London: Macmillan, 1994.

【その他(受験生への要望など)】

Oxford English Dictionary を使いこなされるようにしていただきたい。

【授業の概要】

イギリス・ルネサンス文学研究。Shakespeare, *Macbeth* を精読するとともに、第一次・二次資料の取り扱い方について検討する。

【授業の到達目標及びテーマ】

授業で取り扱う Shakespeare の詩と散文の構造を理解できる。

OED の引き方に習熟する。

【授業計画】

1. *Macbeth* 3 幕 1 場、3 幕 2 場 3 幕 3 場解説
2. 3 幕 4 場 l. 1-71
3. 3 幕 4 場 l. 72-143
4. 3 幕 5 場、3 幕 6 場
5. 4 幕 1 場 l. 1-47
6. 4 幕 1 場 l. 48-111
7. 4 幕 1 場 l. 112-156
8. 4 幕 2 場、4 幕 3 場解説
9. 5 幕 1 場
10. 5 幕 2 場、5 幕 3 場
11. 5 幕 4 場～5 幕 7 場
12. 5 幕 8 場、5 幕 9 場
13. 文法事項の確認
14. 第 2 次文献の解説
15. まとめ

【成績評価の方法】

日常の講読の成果によって評価する。

【使用テキスト】

初回の授業でプリントを配付する

【参考書 (参考資料等)】

The Riverside Shakespeare. Ed. G. Blakemore Evans. 2nd ed. Boston: Houghton, 1997.

Sinfield, Alan, ed. *Macbeth*. New Casebooks. London: Macmillan, 1994.

【その他 (受験生への要望など)】

Oxford English Dictionary を使いこなされるようにしていただきたい。

【授業の概要】

Glover と Kaplan によるジェンダー (セクシュアリティを含む) に関する解説書を読み、英米の主要な理論とその問題点を概観する。またジェンダー論の文学、文化に与えた多大な影響力を考察する。

テキストで言及・引用されている、いくつかのジェンダー論については、原典

を読む。

【授業の到達目標及びテーマ】

- ① ジェンダー論の歴史的生成過程を把握し、文学理論研究を深める
- ② さまざまな英米のジェンダー論の特質を理解し、文学研究に適用する力を養う
- ③ 各自がより広く、深くジェンダーやセクシュアリティについて考えるための基礎的知識を身につける

【授業計画】

テキスト (*Genders*) に沿って以下のように読む予定。

- 第1回 序
- 第2回 Introduction (ix~xvi)
- 第3回 Introduction (xvii~xxiv)
- 第4回 Introduction (xxv~xxxiv)
- 第5回 Femininity and feminism (1~10)
- 第6回 Femininity and feminism (10~20)
- 第7回 Femininity and feminism (21~30)
- 第8回 Femininity and feminism (31~40)
- 第9回 Femininity and feminism (41~55)
- 第10回 Masculinities (56~65)
- 第11回 Masculinities (66~75)
- 第12回 Masculinities (76~85)
- 第13回 Extracts from Virginia Woolf, Elaine Showalter, Mary Jacobs
- 第14回 Extracts from Shoshana Felman, Janet Todd, Sandra M. Gilbert and Susan Gubar
- 第15回 Extracts from Carol Ohmann, Helene Cixous

【成績評価の方法】

クラスでの発表、討論、および期末レポートを総合的に判断する。

【使用テキスト】

David Glover and Cora Kaplan: *Genders* (Routledge).
Reminist Literary Theory: A Reader. Ed. Mary Eagleton (Blackwell)

【参考書(参考資料等)】

各トピック、理論についての参考文献は、クラスで適宜紹介する。

【その他(受験生への要望など)】

文学におけるジェンダー、セクシュアリティなどに関心がある人の履修を希望する。ある程度の時間を割いて予習することが必須条件。

近代英文学演習-2

後期

2単位

新見 肇子

【授業の概要】

前期に引き続き、ジェンダー(セクシュアリティを含む)に関する解説書を読み、英米の主要な理論と問題点を概観する。またジェンダー論が文学、文化に与

えた強い影響力を考察する。

テキストで言及、引用されているいくつかの理論については、原典を読む。

【授業の到達目標及びテーマ】

- ① ジェンダー論の歴史的生成過程を把握し、文学理論研究を深める
- ② さまざまな英米のジェンダー論の特質を理解し、文学研究に適用する力を養う
- ③ 各自がより広く、深くジェンダーやセクシュアリティについて考えるための基礎的知識を身につける

【授業計画】

テキスト (*Genders*) を以下のように読む予定

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 序 |
| 第2回 | Queering the pitch (86~96) |
| 第3回 | Queering the pitch (97~107) |
| 第4回 | Queering the pitch (107~115) |
| 第5回 | Queering the pitch (116~120) |
| 第6回 | Readers and spectators (121~128) |
| 第7回 | Readers and spectators (129~137) |
| 第8回 | Readers and spectators (138~147) |
| 第9回 | Readers and spectators (148~156) |
| 第10回 | Conclusion (157~160) |
| 第11回 | Extracts from Ellen Mores, Cora Kaplan, Rosalind Coward |
| 第12回 | Extracts from Janice A. Radway, Alison Light |
| 第13回 | Extracts from Annet Kolondny, Mary Poovey |
| 第14回 | Extracts from Julia Kristeva, Jonathan Culler, Luce Irigaray |
| 第15回 | Extracts from Ann Rosalind Jones, Judith Butler |

【成績評価の方法】

クラスでの発表、議論および期末レポートを総合的に評価する。

【使用テキスト】

David Glover and Cora Kaplan: *Genders* (Routledge).

Feminist Literary Theory: A Reader. Ed. Mary Eagleton (Blackwell).

【参考書 (参考資料等)】

各トピックや理論については、クラスで適宜紹介する。

【その他 (受験生への要望など)】

文学におけるジェンダーやセクシュアリティの問題に関心のある人の履修を希望する。ある程度の時間を割いて予習することが必須条件。

【授業の概要】

現代アメリカのポストモダン作家の中でも特に難解とされる Robert Coover の *Pinocchio in Venice* を精読する。この小説は、イタリア語の小説 *Le Avventure di*

Pinocchio のパロディでもあるので、イタリア語の原文にもあたりつつ、Coover の小説を丁寧に訳していく。

【授業の到達目標及びテーマ】

難解な Coover の世界を理解し、その面白さを知ることが目標。さらに他のポストモダンと言われる作品にも興味を広げてほしい。

【授業計画】

1. イントロ
2. Pinocchio in Venice, 1 章
3. Pinocchio in Venice, 2 章
4. Pinocchio in Venice, 3 章
5. Pinocchio in Venice, 4 章
6. Pinocchio in Venice, 5 章
7. Pinocchio in Venice, 6 章
8. Pinocchio in Venice, 7 章
9. Pinocchio in Venice, 8 章
10. Pinocchio in Venice, 9 章
11. Pinocchio in Venice, 10 章
12. Pinocchio in Venice, 11 章
13. Pinocchio in Venice, 12 章
14. Pinocchio in Venice, 13 章
15. Pinocchio in Venice, 14 章

【成績評価の方法】

普段の授業への貢献度が 70%、学期末のレポートが 30%。

【使用テキスト】

授業時に指示する。

【参考書(参考資料等)】

授業時に指示する。

【その他(受験生への要望など)】

毎回、各自がかなり調べてくること。範囲のすべてを翻訳できるくらいに準備し、授業に参加することが求められる。

現代英米文学演習-2

後期

2 単位

上岡 伸雄

【授業の概要】

前期に続いて、Robert Coover の Pinocchio in Venice を精読する。この小説は、イタリア語の小説 *Le Avventure di Pinocchio* のパロディでもあるので、イタリア語の原文にもあたりつつ、Coover の小説を丁寧に訳していく。

【授業の到達目標及びテーマ】

難解な Coover の世界を理解し、その面白さを知ることが目標。さらに他のポストモダンと言われる作品にも興味を広げてほしい。

【授業計画】

1. イントロ
2. Pinnochio in Venice, 15 章
3. Pinnochio in Venice, 16 章
4. Pinnochio in Venice, 17 章
5. Pinnochio in Venice, 18 章
6. Pinnochio in Venice, 19 章
7. Pinnochio in Venice, 20 章
8. Pinnochio in Venice, 21 章
9. Pinnochio in Venice, 22 章
10. Pinnochio in Venice, 23 章
11. Pinnochio in Venice, 24 章
12. Pinnochio in Venice, 25 章
13. Pinnochio in Venice, 26 章
14. Pinnochio in Venice, 27 章
15. Pinnochio in Venice, 28 章

【成績評価の方法】

普段の授業への貢献度が 70%、学期末のレポートが 30%。

【使用テキスト】

授業時に指示する。

【参考書（参考資料等）】

授業時に指示する。

【その他（受験生への要望など）】

毎回、各自がかなり調べてくること。範囲のすべてを翻訳できるくらいに準備し、授業に参加することが求められる。

米文学演習-1

前期

2 単位

大場 昌子

【授業の概要】

ユダヤ系アメリカ人作家 Anzia Yezierska (1880 頃-1970) の作品を取り上げ、様々な側面から作品を分析する。

【授業の到達目標及びテーマ】

- (1) 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて、ヨーロッパから多数のユダヤ人がアメリカ合衆国に移民した歴史的事実を正確に把握している。
- (2) 作品について、様々な論点を見出すことができる。

【授業計画】

Bread Givers (1925) を読む。毎回、分担した箇所について発表していただき、それについて全員で意見交換を行っていく。

1. Introduction: 作家の紹介
2. アメリカ合衆国のユダヤ系移民——移民第一世代
3. アメリカ合衆国のユダヤ系移民——移民第二世代

4. Anzia Yezierska の生涯
5. *Bread Giver*—ユダヤ社会と父権
6. *Bread Givers*—ニューヨークのユダヤ人居住地区
7. *Bread Givers*—20世紀初頭のアメリカ社会と女性
8. *Bread Givers*—ユダヤ文化
9. *Bread Givers*—移民とアメリカ化
10. *Bread Givers*—移民と労働
11. *Bread Givers*—作品の構成
12. Yezierska についての批評
13. Discussion
14. 各自設定したテーマについての Presentation
15. Review

【成績評価の方法】

テキストについてレポートを書いていただく。

【使用テキスト】

Anzia Yezierska, *Bread Givers*.

【参考書(参考資料等)】

必要に応じて適宜指示する。

【その他(受験生への要望など)】

まずは正確にテキストを理解し、その上で多面的に問題意識をもってテキストを分析する姿勢を養っていただきたい。

米文学演習-2

後期

2単位

大場 昌子

【授業の概要】

ユダヤ系アメリカ人作家 Bernard Malamud (1914-1986) の作品を取り上げ、様々な側面から作品を分析する。

【授業の到達目標及びテーマ】

- (1) 帝政ロシアのユダヤ人が置かれた状況について歴史的事実を正確に把握している。
- (2) 作品について、様々な論点を見出すことができる。

【授業計画】

The Fixer (1967) を読む。

毎回、分担した箇所について各自発表していただき、それについて全員で意見交換を行っていく。

1. Introduction: 作家の紹介
2. 帝政ロシアのユダヤ社会
3. 「ボグロム」
4. *The Fixer*—作品の構成
5. *The Fixer*—内容理解
6. *The Fixer*—フィクションとノンフィクション

7. *The Fixer*—ユダヤ人と信仰
8. *The Fixer*—ユダヤ人の歴史観
9. *The Fixer*—ホロコースト文学
10. *The Fixer*—作品の人物造形
11. *The Fixer*の先行研究を読む
12. Malamud についての批評
13. Discussion
14. 各自設定したテーマについての Presentation
15. Review

【成績評価の方法】

テキストについてレポートを書いていただく。

【使用テキスト】

Bernard Malamud, *The Fixer*.

【参考書 (参考資料等)】

必要に応じて適宜指示する。

【その他 (受験生への要望など)】

まずは正確にテキストを理解し、その上で多面的に問題意識をもってテキストを分析する姿勢を養っていただきたい。

英語学講義-1

前期

2単位

松森 晶子

【授業の概要】

この授業では、学部と言語学の基礎的訓練を終了した学生を対象に、日本語アクセント研究の現状と課題について解説を行う。前期は、日本語方言アクセント研究の基本的概念についての解説をおこない、それと平行して、方言の音声データを聞き、その聞き取りと分析の訓練を行う。また、句のアクセント、複合語の規則、外来語のアクセントなどに一般に見られる傾向ついて、その原因を考える。

前期に扱う方言としては、東京、鶴岡 (山形県)、青谷 (鳥取県)、隠岐島、鹿児島 (穎娃)、四国の香川県観音寺市、伊吹島、高知県安芸市、京都などのアクセントを考えている。これらをデータとして使用して、それらの分析方法や記述研究の課題などについての知見を得る。

【授業の到達目標及びテーマ】

日本語アクセント研究の現状と、その分析方法について学ぶ。また、下げ核、昇り核、n+1型アクセント、N型アクセント、アクセントの体系等、日本語諸方言のアクセントの多様さを分析するための基礎概念についての知見を得る。単なる概説ではなく、具体的なデータを学生ひとりひとりが分析してみることによって、アクセント体系や規則性を発見する方法を、学生自身が体得できるようになることが目標。

【授業計画】

アクセント関連の論文をテキストとして使用しながら概説を行う。完全な講義形式ではなく、各学生がそれぞれ割り当てられたテキストの部分について発表し、

その内容に基づいて議論することによって授業を進める。

それと平行して、課題として出された諸言語の音声データを、学生各自が電子データで持ち帰り、分析してくる、という課題を課すことも考えている。授業では、その分析結果を分担の学生が発表し、皆で討論する。

第1回 アクセントとは何か、その分析のための基本的概念について概説。

第2回 n+1型方言(1) 東京方言の体系、句アクセント

第3回 n+1型方言(2) 東京方言の規則(外来語、複合語)

第4回 n+1型方言(3) 東京方言の文節のアクセント(助詞のアクセント、助詞連続)

第5回 n+1型方言(4) 鳥取県青谷方言の体系(東京との比較)

第6回 n+1型方言(5) 鳥取県青谷方言の規則(助詞付き文節のアクセント、助詞連続)

第7回 n+2型方言(1) 山形県鶴岡方言アクセント(体系)

第8回 n+2型方言(2) 山形県鶴岡方言アクセント(規則)

第9回 N型方言(1) 鹿児島県頴娃方言の2型アクセント(名詞)

第10回 N型方言(2) 鹿児島県頴娃方言の2型アクセント(形容詞、動詞)

第11回 N型方言(3) 鳥根県隠岐島方言の3型アクセント(名詞)

第12回 N型方言(4) 鳥根県隠岐島方言の3型アクセント(助詞、助詞連続)

第13回 声調のある方言 香川県観音寺市伊吹島(1)、下降式の聞き取り

第14回 声調のある方言 香川県観音寺市伊吹島(2)(その歴史言語学上の意義)

【成績評価の方法】

授業への参加(30%)、発表の準備(30%)、課題レポート、および最終の自由レポートの評価(40%)

【使用テキスト】

適宜、プリントを配布

英語学講義-2

後期

2単位

松森 晶子

【授業の概要】

前期に引き続き、日本語アクセントの諸問題を扱う。アクセント研究の基礎的発想法と分析の方法について学ぶ。後期は特に、日本語アクセントを通じた通時的研究方法(方言の系統や祖語の再建)について分析する方法を学ぶ。

単なる概説ではなく、諸言語の具体的なデータを学生ひとりひとりが分析することによって、アクセントの体系、規則性を発見する方法を、学生自身が体得できるように指導する。

【授業の到達目標及びテーマ】

日本語アクセントの通時的研究の諸問題についての理解を得る。また日本語諸方言のアクセントのデータを用いて、「類別語彙、系列別語彙、式」といった概念とともに、琉球をも含めた日本語の歴史と系統関係を推理する方法について学ぶ。

【授業計画】

前期と同じく、日本語アクセント研究についての解説とともに、日本語諸方言のアクセントに関する論文を読みながら、その分析方法について考える。主として学生による論文の購読と発表、およびその内容に基づく討論を中心にして授業を進める。それと平行して、アクセント関連資料をもとにしたデータ分析を実際に行う。

- 第1回 アクセントを使った比較方言学の方法論について概説
- 第2回 類別語彙について、諸方言の系譜関係推定の方法とは、伊吹島の意味
- 第2回 類の合流を使用した方言区画（中央式、内輪式、外輪式、讃岐式、真鍋式、垂井式）
- 第3回 類の合流を使用した方言区画（讃岐式、真鍋式、垂井式）
- 第4回 讃岐式アクセント（1）（愛媛県川之江市）
- 第5回 讃岐式アクセント（2）（香川県詫間町）
- 第6回 垂井式アクセント（舞鶴、小浜）
- 第7回 京阪式アクセント（京都、安土）
- 第8回 京阪式アクセント（高知県安芸市、高起、低起）
- 第9回 京阪式アクセント（高知県安芸市、式保存）
- 第10回 琉球のアクセントとその系統（系列別語彙とは）
- 第11回 琉球のアクセント（沖永良部島の3型アクセント）
- 第12回 琉球のアクセント（喜界島の2型アクセント）
- 第13回 琉球のアクセント（多良間島の3型アクセント）
- 第14回 琉球のアクセント（徳之島の3型アクセント）
- 第15回 日本語と琉球の比較方言学の将来

【成績評価の方法】

授業の討論への参加（20%）、発表の準備（30%）、期末レポート（50%）

【使用テキスト】

諸方言のアクセント関係の諸論文、概説書からの抜粋をテキストとして使用。
（テキストは授業で配布）

【その他（受験生への要望など）】

前期から引き続いて受講することが望ましい。

英語学演習-1

前期

2単位

藤井 洋子

【授業の概要】

本年度は前・後期を通して、人類言語学のテキストを読み、基礎的知識を身につけ、自身の研究のしっかりした基盤を築くことを目的とします。授業は各院生の発表とディスカッションを中心に進めていきます。

【授業の到達目標及びテーマ】

人類言語学の基礎的知識を身につけ、自身の研究のためのしっかりした基盤を築く。

【授業計画】

院生による発表とディスカッションを中心に授業を行う。発表者はテキストの担当部分に加えて、テキスト以外の参考資料にも当たり、深い理解と背景知識のもとで発表に臨んでほしい。

Week 1	Linguistic Anthropology	Chap. 1	pp. 1-12
Week 2	Linguistic Anthropology	Chap. 1	pp. 13-22
Week 3	Linguistic Anthropology	Chap. 2	pp. 23-33
Week 4	Linguistic Anthropology	Chap. 2	pp. 33-43
Week 5	Linguistic Anthropology	Chap. 2	pp. 43-50
Week 6	Linguistic Anthropology	Chap. 3	pp. 51-60
Week 7	Linguistic Anthropology	Chap. 3	pp. 60-69
Week 8	Linguistic Anthropology	Chap. 3	pp. 69-83
Week 9	Linguistic Anthropology	Chap. 4	pp. 84-95
Week 10	Linguistic Anthropology	Chap. 4	pp. 95-103
Week 11	Linguistic Anthropology	Chap. 4	pp. 103-112
Week 12	Linguistic Anthropology	Chap. 4	pp. 113-121
Week 13	Linguistic Anthropology	Chap. 5	pp. 122-134
Week 14	Linguistic Anthropology	Chap. 5	pp. 134-150
Week 15	Linguistic Anthropology	Chap. 5	pp. 150-161

【成績評価の方法】

発表とディスカッションへの参加の程度 (30%)、提出物 (70%)

【使用テキスト】

Duranti, Alessandro. 2003. Linguistic Anthropology. Cambridge University Press.

【参考書 (参考資料等)】

なし。

英語学演習-2

後期

2単位

藤井 洋子

【授業の概要】

後期も前期に引き続き、人類言語学のテキストを読み進めていきます。

【授業の到達目標及びテーマ】

人類言語学の基礎的知識を身につけ、自身の研究のためのしっかりした基盤を築く。

【授業計画】

院生による発表とディスカッションを中心に授業を行う。発表者はテキストの担当部分に加えて、テキスト以外の参考資料にも当たり、深い理解と背景知識のもとで発表に臨んでほしい。

Week 1	Linguistic Anthropology	Chap. 6	pp. 162-174
Week 2	Linguistic Anthropology	Chap. 6	pp. 174-187
Week 3	Linguistic Anthropology	Chap. 6	pp. 188-201
Week 4	Linguistic Anthropology	Chap. 6	pp. 201-213

Week 5	Linguistic Anthropology	Chap. 7	pp. 214–226
Week 6	Linguistic Anthropology	Chap. 7	pp. 226–236
Week 7	Linguistic Anthropology	Chap. 7	pp. 236–244
Week 8	Linguistic Anthropology	Chap. 8	pp. 245–255
Week 9	Linguistic Anthropology	Chap. 8	pp. 256–267
Week 10	Linguistic Anthropology	Chap. 8	pp. 267–279
Week 11	Linguistic Anthropology	Chap. 9	pp. 280–290
Week 12	Linguistic Anthropology	Chap. 9	pp. 290–300
Week 13	Linguistic Anthropology	Chap. 9	pp. 301–310
Week 14	Linguistic Anthropology	Chap. 9	pp. 311–321
Week 15	Linguistic Anthropology	Chap. 9	pp. 321–330

【成績評価の方法】

発表とディスカッションへの参加の程度 (30%)、提出物 (70%)

【使用テキスト】

Duranti, Alessandro. 2003. *Linguistic Anthropology*. Cambridge University Press.

【参考書 (参考資料等)】

なし。

イギリス文化講義-1 前期 2 単位 川端 康雄

【授業の概要】

19世紀後半のイギリスにおける装飾芸術を通しての社会改良運動を主題とする。ジョン・ラスキン、ウィリアム・モリスらの「芸術を通しての近代社会批判」の流れが1880年代のアーツ・アンド・クラフツ展覧会協会などの工芸運動の興隆を導いた経緯を、ヴィクトリア朝イギリスの社会的文化的コンテクストをおさえつつ考察する。

【授業の到達目標及びテーマ】

- (1) イギリス19世紀後半の芸術運動の概観を学び、その文化史的な意義を理解する。
- (2) 芸術の社会的機能がいかなるものであるか、問題意識を持つ。

【授業計画】

1. 導入——“art”という概念をめぐって。
2. ヴィクトリア朝の社会と文化の概観。
3. ビュージンと中世主義。
4. 1835年の調査委員会。
5. ヘンリー・コールの果たした役割。
6. 1952年のロンドン大博覧会。
7. ジョン・ラスキン——芸術を通しての社会批判。
8. ラスキン『この最後の者にも』(*Unto This Last.*)とその毀誉褒貶。
9. ラスキンとセント・ジョージのギルド。
10. ラファエル前派とデザイン。

11. モリスのレッド・ハウスをめぐって。
12. モリス商会のデザイン制作。
13. 装飾芸術と社会主義。
14. ケルムスコット・プレスとモリスの「活字の冒険」。
15. まとめ。

【成績評価の方法】

平常点（発表、議論への貢献、提出物）による。

【使用テキスト】

Naylor, Gillian. *The Arts and Crafts Movement: A Study of Its Sources, Ideals and Influence on Design Theory*. London, 1971. 2nd ed. London: Trefoil, 1990.

【参考書（参考資料等）】

ケネス・クラーク『ゴシック・リヴァイヴァル』近藤存志訳、白水社、2005年。
 クリス・ブルックス『ゴシック・リヴァイヴァル』鈴木博之、豊口真衣子訳、岩波書店、2003年。

小野二郎『装飾芸術——ウィリアム・モリスとその周辺』青土社、1979年。
 リンダ・パリー『ウィリアム・モリス』多田稔訳、河出書房新社、1998年。
 フィリップ・ヘンダースン『ウィリアム・モリス伝』川端康雄他訳、1990年。
 ウィリアム・モリス『ユートピアだより』川端康雄訳、晶文社、2003年。
 ジョージ・P ランドウ『ラスキン』横山千晶訳、日本経済評論社、2010年。
 その他、授業中に適宜指示する。

【その他（受験生への要望など）】

1880年代のアーツ・アンド・クラフツ運動が行った、社会の中での芸術のありようをめぐる異議申し立ては、21世紀の私たちにとっていかなる関連を有するか。そのアクチュアリティを意識して講義を聞いてもらいたい。

イギリス文化講義-2

後期

2単位

川端 康雄

【授業の概要】

1880年代イギリスでアーツ・アンド・クラフツ運動が開花し、その後世紀転換期から20世紀に入り、アール・ヌーヴォー、ドイツ工作連盟、バウハウス、フランク・ロイド・ライトへ、さらに北欧デザインの発展へと、デザイン思想と実践がどのように展開していったのか、広義のアーツ・アンド・クラフツ史として考察していく。合わせてヴィクトリアニズムと20世紀前半のモダニズムの（断絶でなく）連続性に注目する。

【授業の到達目標及びテーマ】

- (1) イギリス1880年代の芸術・文化運動が欧米各国に波及していった経緯を理解する。
- (2) 芸術の社会的機能がいかなるものであるか、問題意識を持つ。

【授業計画】

1. 導入
2. マクマードウとセンチュリー・ギルド。

3. アート・ワーカーズ・ギルド。
3. アート・アンド・クラフツ展覧会協会の結成と展覧会の組織。
4. ウォルター・クレインの功績。
5. ギルドと産業① — 陶芸、家具。
6. ギルドと産業② — ガラス工芸、金工。
7. クラフツマンとインダストリアル・デザイナー。
8. アシュビーのギルド・オヴ・ハンディクラフツとチップینگ・キャムデン。
9. フランク・ロイド・ライトと「機械のアーツ・アンド・クラフツ」。
10. レサビーとセントラル・スクール・オヴ・アーツ・アンド・クラフツ。
11. 北欧デザインの発展。
12. ロジャー・フライとオメガ工房の意義。
13. 1951年の「イギリス祭」をめぐって。
14. テレンス・コンランの仕事。
15. まとめ

【成績評価の方法】

平常点（発表、議論への貢献、提出物）による。

【使用テキスト】

Naylor, Gillian. *The Arts and Crafts Movement: A Study of Its Sources, Ideals and Influence on Design Theory*. 1971. 2nd Ed. London: Trefoil, 1990.

【参考書（参考資料等）】

菅靖子『イギリスの社会とデザイン——モリスとモダニズムの政治学』彩流社、205年。

菅靖子『モダニズムとデザイン戦略——イギリスの広報政策』ブリュッケ、2008年。

デザイン史フォーラム編『アーツ・アンド・クラフツと日本』思文閣出版、2004年。

藤田治彦編『芸術と福祉——アーティストとしての人間』大阪大学出版会、2009年。

武藤浩史他編『愛と戦いのイギリス文化史 1900–1950年』慶応義塾大学出版会、2011年。

川端康雄他編『愛と戦いのイギリス文化史 1950–2000年』慶応義塾大学出版会、2011年。

レイモンド ウィリアムズ『文化と社会』若松繁信、長谷川光昭訳、ミネルヴァ書房、2008年。

その他、授業中に適宜指示する。

【その他（受験生への要望など）】

芸術の社会的機能について問題意識を持ち、イギリスを中心としての19～20世紀の芸術思想を学びたいという学生を歓迎する。

アメリカ文化講義-1

前期

2単位

島田 法子

【授業の概要】

アメリカ文学やアメリカ文化を学ぶ者にとって、アメリカ女性の歴史をたどり理解することは必須のことである。さらに現在、ジェンダーというキーワードからアメリカ女性史の全体像を探り、理解することも重要になってきている。基本的なことから始めて、アメリカ女性史の全体像を探り、ジェンダーという概念からの理解を得ることがこの科目の目標である。

【授業の到達目標及びテーマ】

各時代の女性たちの記録をとりあげて、時代の制約の中で女性たちが同様に生き、家庭や社会、国家と関わり、文学や芸術を生み出してきたのかを把握すること。前期はアメリカ女性史を基本的なことから学ぶ。

【授業計画】

前期授業計画

1. イントロダクション
2. 最初のアメリカ女性
3. 北アメリカにきた女性
4. 政治と女性の関係
5. 組織化の時代
6. 分裂の時代
7. 金ピカの時代と「母性的国家」
8. 女性と近代
9. フラッパー、フロイト、ジャズの時代
10. 大恐慌の中で
11. 戦時中の女性
12. 冷戦と「フェミニン・ミスティーク」
13. 発見の10年「私的なことは政治的なこと」
14. 私生活の政治化——女性対女性
15. 新しい世紀に向けて

【成績評価の方法】

授業への参加を重視する。また期末に、この科目に関連した、各自の選んだトピックについてペーパーを提出する。総合的に成績を判断する。

【使用テキスト】

サラ・エヴァンズ『アメリカの女性の歴史——自由のために生まれて』第2版(明石書店、1997)

学生の希望する英語文献、論文等を、必要に応じて採用する予定である。

【参考書(参考資料等)】

必要に応じて提示する。

【授業の概要】

アメリカ文学やアメリカ文化を学ぶ者にとって、アメリカ女性の歴史をたどり理解することは必須のことである。さらに現在、ジェンダーというキーワードからアメリカ女性史の全体像を探り、理解することも重要になってきている。この授業では基本的なことから始めて、アメリカ女性史の全体像を探り、ジェンダーという概念からの理解を得ることを目指している。

【授業の到達目標及びテーマ】

各時代の女性たちの記録をとりあげ、時代の制約の中で女性たちが同様に生き、家庭や社会、国家と関わり、文学や芸術を生み出してきたのかを把握することを目標としている。後期は、特にジェンダーをキーワードにしてアメリカ女性史を再解釈する。

【授業計画】

後期授業計画

1. イントロダクション
2. 先住民女性とジェンダー
3. キリスト教共同体と真の女性らしさのイデオロギー
4. アメリカ革命・共和国の母のイデオロギー
5. 市場革命と女性と賃金労働
6. 19世紀後半の女子大学創設
7. 革新主義時代のジェンダー
8. 19世紀後半の移民の妻、母、娘
9. 女性参政権運動
10. 第一次世界大戦の戦時動員と平和運動
11. 大恐慌と女性たちのニューディール
12. 第二次世界大戦と女性労働者と女性兵士
13. 第二次世界大戦と兵士の買春をめぐるジェンダー
14. 冷戦期の日米関係とジェンダー
15. モダン・フェミニズムとアメリカ社会

【成績評価の方法】

授業への参加を重要視する。また期末には、各自がこの授業に関連したトピックを選んでペーパーを提出する。成績は総合的に判断する。

【使用テキスト】

有賀夏紀、小松山ルイ編『アメリカ・ジェンダー史入門』（青木書店、2010）
エレン・キャロル・デュボイス、リン・テュメニル『女性の目からみたアメリカ史』（明石書店、2009）

学生の希望する英語文献、論文等を、必要に応じて採用する予定である。

【参考書（参考資料等）】

必要に応じて適宜紹介する。

英語論文作成法・上級-1(ワトソン) 前期 2単位 ワトソン

【授業の概要】

The purpose of this course is to help students develop their academic writing skills prior to submission of their thesis for the postgraduate degrees. Advice is offered on planning, writing and formatting the thesis, with students making individual appointments as required.

【授業の到達目標及びテーマ】

Developing academic writing skills prior to submission of the thesis for the postgraduate degrees.

【授業計画】

1. Introduction
2. Selecting a Topic
3. Plagiarism and Academic Integrity
4. Conducting Research: Library Research Sources
5. Conducting Research: Web Sources
6. Evaluating Sources: Authority
7. Evaluating Sources: Accuracy and Verifiability
8. Evaluating Sources: Currency
9. Taking Notes
10. Outlining: Working Outline
11. Outlining: Thesis Statement
12. Outlining: Outline (Temporary)
13. Outlining: Summing Up
14. Plan and Abstract
15. Comments

【成績評価の方法】

Students are required to submit a plan and abstract by the end of the first semester, a title by the beginning of November, and at least 7,500 words (or thirty pages) of the complete thesis by the third Friday in January. Candidates for the higher doctoral degrees should submit at least thirty pages by the beginning of February.

【使用テキスト】

Handouts are provided as necessary.

【参考書(参考資料等)】

MLA Handbook for Writers of Research Papers. 7th ed. New York: MLA, 2009.

【その他(受験生への要望など)】

Postgraduates have more freedom to plan their research and studies in their own way than do undergraduates, but with freedom comes responsibility and anxiety that one is doing the right thing. Please feel free to contact me at any time during the year if you have any concerns about the writing of your thesis. I am here to help you.

英語論文作成法・上級-2(ワトソン) 後期 2単位 ワトソン
 【授業の概要】

The purpose of this course is to help students develop their academic writing skills prior to submission of their thesis for the postgraduate degrees. Advice is offered on planning, writing and formatting the thesis, with students making individual appointments as required.

【授業の到達目標及びテーマ】

Developing academic writing skills prior to submission of the thesis for the post-graduate degrees.

【授業計画】

1. Introduction
2. The Mechanics of Writing
3. The Format of the Research Paper
4. Final Outline
5. Documentation: Preparing the List of Works Cited
6. Documentation: Citing Sources in the Text
7. The First Draft
8. Comments on the First Draft
9. Improving Coherence
10. Improving Fluency
11. Rearranging Phrases, Clauses, Sentences, or Paragraphs
12. Mechanical Kinds of Revision
13. The Final Draft
14. Comments on the Final Draft
15. Summing Up

【成績評価の方法】

Students are required to submit a plan and abstract by the end of the first semester, a title by the beginning of November, and at least 7,500 words (or thirty pages) of the complete thesis by the third Friday in January. Candidates for the higher doctoral degrees should submit at least thirty pages by the beginning of February.

【使用テキスト】

Handouts are provided as necessary.

【参考書(参考資料等)】

MLA Handbook for Writers of Research Papers. 7th ed. New York: MLA, 2009.

【その他(受験生への要望など)】

Postgraduates have more freedom to plan their research and studies in their own way than do undergraduates, but with freedom comes responsibility and anxiety that one is doing the right thing. Please feel free to contact me at any time during the year if you have any concerns about the writing of your thesis. I am here to help you.

英語論文作成法・上級-2(スレイター) 後期 2単位 スレイター

【授業の概要】

This course focuses on writing the M.A. and Ph.D. thesis.

【授業の到達目標及びテーマ】

Students will meet regularly with the instructor to consult on their thesis.

【授業計画】

- Week 1 Review of critical sources.
- Week 2 Review of outlines.
- Week 3 Critique & revision of outlines.
- Week 4 Critique: Introduction
- Week 5 Presentation of Revised Introduction
- Week 6 Critique: Chapter 1
- Week 7 Presentation of Chapter 1
- Week 8 Critique: Chapter 2
- Week 9 Presentation of Chapter 2
- Week 10 Critique: Chapter 3
- Week 11 Presentation of Chapter 3
- Week 12 Critique: Conclusion
- Week 13 Presentation of Conclusion
- Week 14 Critique: Works Cited.
- Week 15 Final critique.

【成績評価の方法】

Regular consultation with the instructor and progress on the thesis.

【使用テキスト】

To be announced.

【参考書(参考資料等)】

None.

西洋古典・中世文学特論-1 前期 2単位 川端 康雄

【授業の概要】

Ovidius (Publius Ovidius Naso, 43 B.C.–17 A.D.) の *Metamorphoses* をテキストとした古典ラテン語入門書を用いて、ラテン語文法の強化を図ると同時に、西洋古典文学の傑作を原典で味読することを目的とする。

【授業の到達目標及びテーマ】

- (1) ラテン語の接続法の変化と用法が理解できる。
- (2) ラテン語で書かれたまとまった文章を辞書と文法書を引いて読解できる。
- (3) 印欧語の比較文法について関心を深める。

【授業計画】

1. 導入
2. Iason et Argonautae

3. Amor Iasonis
4. Labores Iasonis
5. Facta Magica Medeae
6. Facta Mala Medeae
7. Theseus Troezenae
8. Theseus Athenis
9. Theseus Cretae (Part 1)
10. Theseus Cretae (Part 2)
11. 接続法のまとめ
12. Theseus Rex (Part 1)
13. Theseus Rex (Part 2)
14. Pluto et Proserpina
15. まとめ

【成績評価の方法】

平常点による。

【使用テキスト】

Goldman, Norma, and Jacob E. Nyenhuis. *Latin via Ovid: A First Course*. 2nd ed. Detroit: Wayne State UP, 1982.

【参考書（参考資料等）】

授業中に適宜指示する。

【その他（受験生への要望など）】

受講生はラテン語の初等文法をひとつとおりに学習済みであることを要する。

西洋古典・中世文学特論-2 後期 2単位

川端 康雄

【授業の概要】

前期の西洋古典・中世文学特論-1に引き続き、Ovidius (43 B.C.-17 A.D.) の *Metamorphoses* をテキストとした古典ラテン語入門書を用いて、ラテン語文法の強化を図ると同時に、西洋古典文学の傑作を原典で味読することを目的とする。

【授業の到達目標及びテーマ】

- (1) ラテン語の韻文の形式のうち、ヘクサメトルスの形を理解し、韻律分析ができるようになる。
- (2) オウィディウスの韻文物語を辞書と文法書を使って読解できるようになる。
- (3) オウィディウスの韻文物語を通して、ギリシア・ローマ神話への関心を深める。

【授業計画】

1. 導入
2. Bellum Troianum: Sacrificium Iphigeniae
3. ヘクサメトルスの詩形について
4. Bellum Troianum: Mors Cygni
5. Bellum Troianum: Aiax et Ulixes

6. Bellum Troianum: Troia Capta
7. ホメーロス『オデュッセイア』とトロイの物語について
8. Aeneas
9. Achaemenides
10. Circe
11. ラテン語に見られる中動相 (middle voice) の用法について
12. Ceyx et Alcyone
13. Sibylla Cumaea
14. Aeneas in Italia
15. まとめ

【成績評価の方法】

平常点による。

【使用テキスト】

Goldman, Norma, and Jacob E. Nyenhuis. *Latin via Ovid: A First Course*. 2nd ed. Detroit: Wayne State UP, 1982.

【参考書(参考資料等)】

授業中に適宜指示する。

【その他(受験生への要望など)】

受講生はラテン語の初等文法をひとつおりに終えていることを要する。

英米小説特論 I-1

前期

2単位

三神 和子

【授業の概要】

イギリスの New Woman の作品を読み、時代背景やイギリス女性史、また同時代の他の作家の作品と照らし合わせながら、その特質を考える。

【授業の到達目標及びテーマ】

① New Woman の作品を読み、どのようなものなのかを具体的に考察する。

【授業計画】

分担を決めて、New Woman の短編やエッセイを一篇ごとに読み進む。

1. ガイダンス
2. New Woman の概説を読む。(p. 1-5)
3. 同上 (p. 6-10)
4. 同上 (p. 11-15)
5. 同上 (p. 16-20)
6. Olive Schreiner, “The Dreams in a Desert”
7. “Life’s Gift”
8. “The Buddhist Priest’s Wife”
9. *Woman and Labour* の抜粋——前半
10. 同上 抜粋——後半
11. Sarah Grand, “The New Aspect of New Woman”
12. “The Man of the Moment”

13. “The Undefinable: A Fantasia”

14. 時代背景

15. まとめ

【成績評価の方法】

発表内容と期末レポート。

【使用テキスト】

Elaine Showalter, *Daughters of Decadence*

他のテキストはプリントを配布。

【参考書 (参考資料等)】

授業中、適宜指示する。

英米小説特論 I-2

後期

2 単位

三神 和子

【授業の概要】

イギリス及びアメリカの New Woman の短編やエッセイを読み、その主張や特質を考える。

【授業の到達目標及びテーマ】

① New Woman とはどのようなものなのかを時代背景、文学史及び女性史の流れの中で考察する。

【授業計画】

分担を決めて、New Woman の短編やエッセイを読む。

1. ガイダンス

2. Mona Caird, “The Morality of Marriage” — 前半

3. 同上 — 後半

4. George Egerton “The Cross Line” — 前半

5. 同上 — 後半

6. Vernon Lee, “Lady Tal”

7. Victoria Cross, “Theodora: A Fragment”

8. Ada Levenson, “Suggestion”

9. Charlotte Mew, “A White Nifgt”

10. Charlotte Perkins Gilman, “The Yellow Paper” — 3 分の 1

11. 同上 — 3 分の 2

12. 同上 — 3 分の 3

13. 時代背景

14. Virginia Woolf

15. まとめ

【成績評価の方法】

発表内容と期末レポート。

【使用テキスト】

Elain Showalter, *Daughters of Decadence*

他のテキストはプリントを配布。

【参考書(参考資料等)】

授業において適宜指示する。

文学理論特論-1

前期

2単位

巽 孝之

【授業の概要】

文学批評理論はきわめて学際的な分野である。現代に限っても、ロシア・フォルマリズムや新批評、脱構築、ひいては構造主義から新歴史主義やポスト・コロニアリズム、クイア・リーディングへ至る歴史において、文学批評は何よりも自らの属する枠組み自体をたえまなく再検討し、その結果、今日では文学史と文化史を切り離して考えることはできなくなっている。そこには、いかなる文芸批評史の流れが作用していたのかを、根本に立ち戻って考え直す。

【授業の到達目標及びテーマ】

文学研究を理論的に学ぶことにより、文学的テキスト及び文化的コンテクストのいっそう深い理解力を習得する。

【授業計画】

1. ガイダンス・文芸批評史序説
2. Davis & Schleifer, "General Introduction"
3. Part 1: What is Literary Studies?
4. Eliot, Frye
5. West, Graff, Viswanathan
6. Part 2: What is Literary Theory?
7. De Man, Miller
8. bell hooks, Ahmad, Said
9. Part 3: Rhetoric and Reader Response
10. Fish, Schweickart
11. Johnson, Moulthrop
12. Part 4: Structuralism and Semiotics
13. Saussure, Barthes
14. Marin, de Lauretis
15. 前期総括(前期レポート締切)

【成績評価の方法】

基本的に前期・後期の平常点ないし年間2回のレポートで決定する。
受講者数および顔ぶれ次第で、発表形式を採る可能性もある。

【使用テキスト】

Robert Con Davis & Ronald Schleifer, eds, *Literary Criticism: Literary and Cultural Studies*, 4th ed. (New York: Longman, 1998).

*教科書以外の文献をプリントしてその場で読んでもらうことも少なくない

【参考書(参考資料等)】

巽孝之『メタファーはなぜ殺される——現代批評講義』(松柏社、2000年)

文学理論特論-2

後期

2 単位

巽 孝之

【授業の概要】

文学批評理論はさきわめて学際的な分野である。現代に限っても、ロシア・フォルマリズムや新批評、脱構築、ひいては構造主義から新歴史主義やポスト・コロニアリズム、クイア・リーディングへ至る歴史において、文学批評は何よりも自らの属する枠組み自体をたえまなく再検討し、その結果、今日では文学史と文化史を切り離して考えることはできなくなっている。そこには、いかなる文芸批評史の流れが作用していたのかを、根本に立ち戻って考え直す。

【授業の到達目標及びテーマ】

文学研究を理論的に学ぶことにより、文学的テキスト及び文化的コンテキストのいっそう深い理解力を習得する。

【授業計画】

1. Part 5: Deconstruction and Poststructuralism
2. Culler, Derrida
3. Foucault, Belsey
4. Part 6: Psychology and Psychoanalysis
5. Lacan, Felman
6. Zizek, Mulvey
7. Part 7: Historical Criticism
8. Bakhtin, Williams
9. Greenblatt, Armstrong
10. Part 8: Feminism and Gender Studies
11. Fuss, Kaplan
12. Butler, Warner
13. Part 9: Cultural Studies
14. Hebdige, Hall, Clifford, Haraway
15. 後期総括 (後期レポート締切)

【成績評価の方法】

基本的に前期・後期の平常点ないし年間2回のレポートで決定する。
受講者数および顔ぶれ次第で、発表形式を採る可能性もある。

【使用テキスト】

Robert Con Davis & Ronald Schleifer, eds, *Literary Criticism: Literary and Cultural Studies*, 4th ed. (New York: Longman, 1998).

*教科書以外の文献をプリントしてその場で読んでもらうことも少なくない

【参考書 (参考資料等)】

巽孝之『メタファーはなぜ殺される——現代批評講義』(松柏社、2000年)

比較文化・言語特論-1

前期

2 単位

守屋 靖代

【授業の概要】

英語の誕生から現在までの約1500年の歴史を共時的、通時的に概観し、社会

の趨勢や国際社会の出来事のなかで英語が果たす役割について考え、発音、文法、語彙、書記法、などの英語の構造と、社会的変種、地域の変種、歴史的特徴、国際社会における役割など使い方というふたつの面から英語の特徴を解明する。そして、その知識を英語研究、言語研究にどのように活かすかを共に考える。

【授業の到達目標及びテーマ】

印欧語、ゲルマン語族と英語の関係から始めて、現代英語に至るまでの英語の歴史、発達を概観し、今では国際語となった英語の成り立ちを包括的に考察する。

【授業計画】

英語に限らず生きている言語は日々刻々と形を変えている。その変化を研究する英語史は古くて新しい、しかも言語の全てを包括する分野なのである。言葉は文化に直結するアイデンティティに強く結びつくものであるから、英語史の知識を得ることは、その構造、文法、歴史、使い方、コミュニティとしての価値観や文化等についてよく知ることである。

前半は、英語史の総論、言語変化の様々な現象、スペルと音、造語法、意味について取り上げ、1回ごとの項目を、レクチャー、クラスアクティビティ、個人またはグループによるリサーチという3段階で構成する。

1. 英語史概要、教科書紹介
2. 地名の歴史——ゲルマン方言としての歴史
3. 人名の歴史——ハイブリッド言語としての歴史
4. 言語変化——現象と要因
5. スペルと音——例外だらけの英語スペルと音韻変化
6. 母音変化とスペルの標準化
7. 現代英語への応用——英語の音、スペル、ネーミング
8. 語彙——成り立ちと広がり
9. 借用語——語源と内的変化
10. 借用語——言語接触と歴史的影響
11. 造語法——際限のない創造力
12. 現代英語への応用？ マスメディアとコマーシャルリズムの造語力
13. 意味の変化？ 種類と仕組み
14. 社会言語学の視点からみた英語の変種
15. まとめ——通時と共時から英語の変化を考える

【成績評価の方法】

出席、授業への参加、アクティビティの成果、個人またはグループのリサーチの成果による。

【使用テキスト】

Culpeper, Jonathan. *History of English*. Second Edition. London and New York: Routledge, 2005. 各自用意すること。他の資料や課題は授業で配布する。

【参考書(参考資料等)】

授業内で参考文献リストを配布する。

【その他(受験生への要望など)】

英語は発音、語彙、文法、意味、使い方、書き方全てに例外が多い言語である。英語の歴史を知ると、中学や高校の時にただ覚えるだけだった例外の理由に納得がいき、どうしてそうなるのかを不思議に思う好奇心が生じる。また国際語になった英語が世界各地で起こす変化にも関心が増す。この授業では変化のプロセスを調べる術を知り、要因を探る探究心の向上を目指す。

比較文化・言語特論-2

後期

2単位

守屋 靖代

【授業の概要】

英語の誕生から現在までの約 1500 年の歴史を共時的、通時的に概観し、社会の趨勢や国際社会の出来事のなかで英語が果たす役割について考え、発音、文法、語彙、書記法、などの英語の構造と、社会的変種、地域的変種、歴史的特徴、国際社会における役割など使い方というふたつの面から英語の特徴を解明する。そして、その知識を英語研究、言語研究にどのように活かすかを共に考える。

【授業の到達目標及びテーマ】

欧語、ゲルマン語族と英語の関係から始めて、現代英語に至るまでの英語の歴史、発達を概観し、今では国際語となった英語の成り立ちを包括的に考察する。

【授業計画】

英語に限らず生きている言語は日々刻々と形を変えている。その変化を研究する英語史は古くて新しい、しかも言語の全てを包括する分野なのである。言葉は文化に直結するアイデンティティに強く結びつくものであるから、英語史の知識を得ることは、その構造、文法、歴史、使い方、コミュニティとしての価値観や文化等についてよく知ることである。

後半は、文法の変化、イギリスの方言、スタンダードとされる英語、国際語としての英語について取り上げ、ひとつの項目を、レクチャー、クラスアクティビティ、個人またはグループによるリサーチという3段階で構成する。

1. 英文法概要——文法理論の進展
2. 文法変化——名詞の歴史
3. 文法変化——代名詞の歴史
4. 文法変化——動詞の歴史
5. 文法変化——助動詞の歴史
6. 文法変化——文の成り立ち
7. 現代英語への応用——文法変化と標準英語
8. 英語方言——イギリスの方言と社会階級
9. 英語方言——イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリアの英語
10. 標準化——辞書、文法書、書記法
11. 国際語としての英語——世界で起こる変化
12. 現代英語への応用——日本の英語
13. 国際語としての英語——社会言語学の視点から
14. コーパス言語学とリサーチ方法

15. まとめ——英語の過去、現在、未来

【成績評価の方法】

出席、授業への参加、アクティビティの成果、個人またはグループの研究の成果による。

【使用テキスト】

Culpeper, Jonathan. *History of English*. Second Edition. London and New York: Routledge, 2005. 各自用意すること。他の資料や課題は授業で配布する。

【参考書(参考資料等)】

授業内で参考文献リストを配布する。

【その他(受験生への要望など)】

英語は発音、語彙、文法、意味、使い方、書き方全てに例外が多い言語である。英語の歴史を知ると、中学や高校の時にただ覚えるだけだった例外の理由に納得がいき、どうしてそうなるのかを不思議に思う好奇心が生じる。また国際語になった英語が世界各地で起こす変化にも関心が増す。この授業では変化のプロセスを調べる術を知り、要因を探る探究心の向上を目指す。

イギリス文化特論-1

前期

2単位

佐藤 和哉

【授業の概要】

そもそも「イギリス文化研究とは何か」という問題を正面から論じたテキストを読みます。ここでは、イギリス内部で「イギリス文化」というもののインテグリティが問題にされたり、カルチュラル・スタディーズが脚光を浴びたりするようになってきた、90年代の時代状況が一つの焦点になります。カルチュラル・スタディーズとは、イギリス文化とは、また、英語教育との関連は何か、などが議論の対象となるので、幅広い受講者の関心に応えるものだと思います。テキストは、Bassnett, Susan. Ed. *Studying British Cultures*. 2nd ed. London and NY: Routledge, 2003. ISBN 0-415-32351-7 を用います。毎回担当者を決めて読んでいきます。また、必要に応じて、受講者によるミニ研究発表を入れるかもしれません。詳細は初回に説明します。

【授業の到達目標及びテーマ】

- 1) 英語の研究書を正確に読めるようになる。
- 2) 大学院での研究に必要な文学理論・文化理論に慣れる。
- 3) イギリスにおけるカルチュラル・スタディーズの歴史的形成についての知識を深める。
- 4) カルチュラル・スタディーズの隣接諸分野についての意識を持つ。

【授業計画】

1. イントロダクション
2. Introduction (1) pp. xiii-xvii
3. Introduction (2) pp. xvii-xxiv
4. Introduction (3) pp. xxiv-xxvii
5. Facts and Meanings in British Cultural Studies (1) pp. 20-23

6. Facts and Meanings in British Cultural Studies (2) pp. 24–30
7. Facts and Meanings in British Cultural Studies (3) pp. 31–40
8. Cultural Studies and Foreign Language Teaching (1) pp. 56–60
9. Cultural Studies and Foreign Language Teaching (2) pp. 60–65
10. Cultural Studies and Foreign Language Teaching (3) pp.65–67
11. ミニ発表 (1) Introduction の内容との関連で
12. ミニ発表 (2) Facts and Meanings の内容との関連で
13. ミニ発表 (3) Foreign Language Teaching の内容との関連で
14. ミニ発表 (4) その他
15. まとめ

【成績評価の方法】

授業に対する貢献度と期末のレポートなどから総合的に判断します。

【使用テキスト】

「授業の概要」欄を参考にしてください。

【参考書 (参考資料等)】

大橋洋一 (編) 『現代批評理論のすべて』 (新書館、2006 年)

これ以外については授業で指示します。

【その他 (受験生への要望など)】

「文化」を研究することは、当然、「文学」を研究することや「言語」を研究することとオーバーラップします。イギリス文化研究を専攻する人でなくても、興味があれば、初回の授業に出てみてください。

イギリス文化特論-2

後期

2 単位

佐藤 和哉

【授業の概要】

そもそも「イギリス文化研究とは何か」という問題を正面から論じたテキストを読みます。ここでは、イギリス内部で「イギリス文化」というもののインテグリティが問題にされたり、カルチュラル・スタディーズが脚光を浴びたりするようになってきた、90 年代の時代状況が一つの焦点になります。カルチュラル・スタディーズとは、イギリス文化とは、また、英語教育との関連は何か、などが議論の対象となるので、幅広い受講者の関心に応えるものだと思います。テキストは、Bassnett, Susan. Ed. *Studying British Cultures*. 2nd ed. London and NY: Routledge, 2003. ISBN 0-415-32351-7 を用います。毎回担当を決めて読んでいきます。また、必要に応じて、受講者によるミニ研究発表を入れるかもしれません。詳細は初回に説明します。

【授業の到達目標及びテーマ】

- 1) 英語の研究書を正確に読めるようになる。
- 2) 大学院での研究に必要な文学理論・文化理論に慣れる。
- 3) イギリスにおけるカルチュラル・スタディーズの歴史的形成についての知識を深める。
- 4) カルチュラル・スタディーズの隣接諸分野についての意識を持つ。

【授業計画】

1. インTRODクシヨN／前期レポート講評
2. British Studies: an educational perspective (1) pp.41-44
3. British Studies: an educational perspective (2) pp.44-48
4. British Studies: an educational perspective (3) pp.48-55
5. Fictional Maps of Britain (1) pp.68-73
6. Fictional Maps of Britain (2) pp.73-78
7. Fictional Maps of Britain (3) pp.78-83
8. But What is Cultural Studies? (1) pp.3-7
9. But What is Cultural Studies? (2) pp.7-12
10. But What is Cultural Studies? (3) pp.12-19
11. ミニ発表 (1) Educational perspective の内容との関連で
12. ミニ発表 (2) Fictional Maps の内容との関連で
13. ミニ発表 (3) Cultural Studies の内容との関連で
14. ミニ発表 (4) そのほか
15. まとめ

【成績評価の方法】

授業に対する貢献度と期末のレポートなどから総合的に判断します。

【使用テキスト】

「授業の概要」欄を参考にしてください。

【参考書(参考資料等)】

大橋洋一(編)『現代批評理論のすべて』(新書館、2006年)
これ以外については授業で指示します。

【その他(受験生への要望など)】

「文化」を研究することは、当然、「文学」を研究することや「言語」を研究することとオーバーラップします。イギリス文化研究を専攻する人でなくても、興味があれば、初回の授業に出てみてください。

アメリカ研究特論 I-1

前期

2単位

白井 洋子

【授業の概要】

American exceptionalism, Americanism について、アメリカ史の文脈から考察することを目的とする。アメリカ民主主義、アメリカ的価値観の底に流れるものは何か、またその変遷について、今日状況のなかで捉えなおすことができると考える。

【授業の到達目標及びテーマ】

American exceptionalism, Americanism をテーマに、アメリカ社会、文化の特質を史的、思想史的な文脈から理解する。

【授業計画】

1. Introduction
2. *Interpretation of American History* “Introduction” (前半)

3. “Introduction” (後半)
4. The Puritans
5. American Indians
6. The American Revolution (前半)
7. The American Revolution (後半)
8. Slave Culture
9. Reconstruction
10. American Imperialism (前半)
11. American Imperialism (後半)
12. The New Immigration
13. The Civil Rights Movement
14. The Women’s Movement
15. Conclusion 討論とまとめ

【成績評価の方法】

口頭発表、授業参加、学期末レポートによる総合評価。

【使用テキスト】

Francis G. Couvares, Martha Saxton, Gerald N. Grob, and George Athan Billias, eds., *Interpretations of American History* 2 vols Eighth Edition (Boston: Bedford/St. Martin’s, 2009).

上記の文献から、授業テーマと受講者の研究テーマに関連するものを選び読んでいく。

また必要に応じて、雑誌記事、論文なども指示する。

【参考書 (参考資料等)】

イアン・ティレル著 (藤本茂生 / 山倉明弘 / 吉川敏博 / 木下民生訳) 『トランスナショナル・ネーション アメリカ合衆国の歴史』明石書店、2010年。

【その他 (受験生への要望など)】

授業テーマに関連する文献、論文を読み、討論する。歴史、社会、文化、思想の領域を行き来する討論、受講者の研究領域からの活発な討論が行われることを期待する。

アメリカ研究特論 I-2

後期

2単位

白井 洋子

【授業の概要】

American exceptionalism, Ameircanism と結びつけて、人種とジェンダーの問題に焦点を当てる。さらには階級や格差などの経済的側面がこれらの問題にどう関わっているのかを考察する。受講者がそれぞれの研究テーマと関連づけながら史資料を読み、率直活発に議論し、知的に刺激し合う場となることを希望する。

【授業の到達目標及びテーマ】

American exceptionalism, Americanism を人種とジェンダーの視点から読み解く。

【授業計画】

1. Introduction

2. *Americanism* “Introduction”
3. Whose America?: “See Your Declaration Americans!!!”
4. —: “True Americanism”
5. —: “In the Shadow of Vietnam”
6. —: “The American Century of Henry R. Luce”
7. *Americanism in the World*: Introduction
8. —: “Suffering Sisters”
9. —: “Americanism against American Empire”
10. —: “Suffering Sisters?”
11. *American Slavery American Freedom* “Introduction”
12. The Promised Land
13. The Volatile Society
14. Slavery and Freedom
15. Conclusion 討論とまとめ

【成績評価の方法】

口頭発表、授業参加、学期末レポートによる総合評価

【使用テキスト】

Michael Kazin and Joseph A McCartin, eds., *Americanism: New Perspectives on the History of an Ideal* (Chapel Hill: the University of North Carolina Press, 2006).

Edmund S. Morgan, *American Slavery American Freedom: The Ordeal of Colonial Virginia* (New York: W. W. Norton, 1975).

上記の文献から、授業テーマと受講者の研究テーマに関連するものを選び読んでいく。

また必要に応じて、雑誌記事、論文なども指示する。

【参考書(参考資料等)】

有賀夏樹・小椋山ルイ編『アメリカ・ジェンダー史研究入門』青木書店、2010年。

【その他(受験生への要望など)】

授業テーマに関連する文献、論文を読み、討論する。歴史、社会、文化、思想の領域を行き来する討論、受講者の研究領域からの活発な討論が行われることを期待する。

近代英文学特殊研究-1

前期

2単位

新見 肇子

【授業の概要】

個人面談により、研究課題、論文執筆、学会発表などについて話し合い、アドバイスをする。特に、ヴィクトリア時代の女性詩人の作品、批評について議論することにより、問題点を明らかにし、研究の方向性を考え、修了論文執筆の準備をする。

【授業の到達目標及びテーマ】

ヴィクトリア時代の女性詩人、特に Christina Rossetti の作品とその先行研究を

精読し、修了論文(60ページ以上)のテーマを決め、梗概(summary)を執筆する。

【授業計画】

面接と並行して終了論文を書き進める。

- 第1回 序
- 第2回 ヴィクトリア時代の詩について発表
- 第3回 ヴィクトリア時代の女性詩人について発表
- 第4回 ヴィクトリア時代の社会背景
- 第5回 ヴィクトリア時代の宗教
- 第6回 Christina Rossetti の生涯
- 第7回 Christina Rossetti の作品① (*Goblin Market and Other Poems*)
- 第8回 Christina Rossetti の作品② (*The Prince's Progress and Other Poems*)
- 第9回 修了論文のテーマについて検討
- 第10回 修了論文の梗概(summary)提出
- 第11回 先行研究に関する発表①(同時代)
- 第12回 先行研究に関する発表②(20世紀)
- 第13回 先行研究に関する発表③(20-21世紀)
- 第14回 梗概について検討
- 第15回 梗概の改訂版(最終稿)提出

【成績評価の方法】

面接のための準備、面接の際の議論および提出物などを総合的に判断する。

【使用テキスト】

The Complete Poems of Christina Rossetti. Ed. R. W. Crump (Louisiana State UP)

The Complete Poems of Christina Rossetti. Ed. R. W. Crump (Penguin Classics)

【参考書(参考資料等)】

面接の際、適宜紹介する。

近代英文学特殊研究-2

後期

2単位

新見 肇子

【授業の概要】

前期に引き続き、個人面談により、研究課題、論文執筆について話し合い、アドバイスをする。特に修了論文執筆に向けて、草稿の提出と添削を繰り返し、論文を執筆する。

【授業の到達目標及びテーマ】

60ページ以上の独創性のある、専門性の高い修了論文(60ページ以上)を完成する。

【授業計画】

- 第1回 序
- 第2回 Introduction 執筆
- 第3回 Introduction 提出
- 第4回 Introduction について議論/修正
- 第5回 Chapter 1 執筆

- 第6回 Chapter 1 提出
- 第7回 Chapter 1 について議論／修正
- 第8回 Chapter 2 執筆
- 第9回 Chapter 2 提出
- 第10回 Chapter 2 について議論／修正
- 第11回 Chapter 3 執筆
- 第12回 Chapter 3 について議論／修正
- 第13回 Conclusion 提出
- 第14回 Works Cited 提出
- 第15回 最終稿提出

【成績評価の方法】

面接の際の議論、完成した修了論文をもとに評価する。

【使用テキスト】

The Poems of Christina Rossetti. Ed. R. W. Crump (Louisiana State UP)

The Poems of Christina Rossetti. Ed. R. W. Crump (Penguin Classics)

【参考書(参考資料等)】

面接の際、適宜紹介する。

英米文学特殊研究-1(三神) 前期 2単位

三神 和子

【授業の概要】

イギリス文学の研究を、受講生の希望を考慮して行う。

【授業の到達目標及びテーマ】

- ① 各自の研究がより高度で質の高いものになることを目指す。
- ② 文献を上手に探せるようにする。
- ③ 英語の文献を読みこなせるようにする。

【授業計画】

個人指導となるので、一人、一人の受講生との話し合いで計画をたてる。

- 1. 個人面談-1
- 2. 個人面談-2
- 3. 個人面談-3
- 4. 個人面談-4
- 5. 個人面談-5
- 6. 個人面談-6
- 7. 個人面談-7
- 8. 個人面談-8
- 9. 個人面談-9
- 10. 個人面談-10
- 11. 個人面談-11
- 12. 個人面談-12
- 13. 個人面談-13

14. 個人面談—14

15. 個人面談—15

【成績評価の方法】

当初の計画を達成しているか、否かによって評価する。

【使用テキスト】

受講生の必要に応じて指導する。

【参考書（参考資料等）】

授業中、適宜指示する。

英米文学特殊研究-1(大場) 前期 2単位

大場 昌子

【授業の概要】

20世紀のアメリカ小説を中心に、学生の研究テーマに応じて関連文献を読む。

【授業の到達目標及びテーマ】

研究テーマに関する広範な知識を有する。

【授業計画】

個人指導のため、受講生と話し合いながら文献を読み進める。

1. Introduction: 研究テーマ
2. 20世紀アメリカ文学におけるユダヤ系作家
3. ユダヤ系男性作家—Saul Bellow、長編
4. ユダヤ系男性作家—Saul Bellow、短編
5. ユダヤ系男性作家—Bernard Malamud、長編
6. ユダヤ系男性作家—Bernard Malamud、短編
7. Discussion
8. ユダヤ系男性作家—Philip Roth、長編（1980年代まで）
9. ユダヤ系男性作家—Philip Roth、長編（1990年以降）
10. ユダヤ系男性作家—Philip Roth、短編
11. ユダヤ系男性作家—Issac B. Singer、長編
12. ユダヤ系男性作家—Issac B. Singer、短編
13. Yiddish 文学
14. Discussion
15. Review

【成績評価の方法】

レポートを書いていただく。

【使用テキスト】

適宜指示する。

英米文学特殊研究-2(三神) 後期 2単位

三神 和子

【授業の概要】

イギリス文学の研究を、受講生の希望を考慮して行う。

【授業の到達目標及びテーマ】

- ① 各自がより高度で質の高い論文がかけられるようにする。
- ② より効果的に文献を収集できるようにする。
- ③ 文献を正確に読めるようにする。

【授業計画】

個人指導となるので、一人一人の受講生との話し合いで計画を立てる。

1. 個人指導-1
2. 個人指導-2
3. 個人指導-3
4. 個人指導-4
5. 個人指導-5
6. 個人指導-6
7. 個人指導-7
8. 個人指導-8
9. 個人指導-9
10. 個人指導-10
11. 個人指導-11
12. 個人指導-12
13. 個人指導-13
14. 個人指導-14
15. 個人指導-15

【成績評価の方法】

当初の計画を達成しているか、否かによって評価する。

【使用テキスト】

受講生の必要に応じて指導する。

【参考書(参考資料等)】

授業中、適宜指示する。

英米文学特殊研究-2(大場) 後期 2単位

大場 昌子

【授業の概要】

20世紀のアメリカ小説を中心に、学生の研究テーマに応じて関連文献を読む。

【授業の到達目標及びテーマ】

研究テーマに関する広範な知識を有する。

【授業計画】

個人指導のため、受講生と話し合いながら文献を読み進める。

1. Introduction: 研究テーマの確認
2. 20世紀アメリカ文学における女性作家
3. ユダヤ系女性作家—Anzia Yezierska、長編
4. ユダヤ系女性作家—Anzia Yezierska、批評
5. ユダヤ系女性作家—Mary Antin、長編

6. ユダヤ系女性作家——Mary Antin、批評
7. Discussion
8. ユダヤ系女性作家——Tillie Lerner Olsen、短編
9. ユダヤ系女性作家——Tillie Lerner Olsen、批評
10. ユダヤ系女性作家——Grace Paley、短編
11. ユダヤ系女性作家——Grace Paley、評価
12. ユダヤ系女性作家——Cynthia Ozick、長編
13. ユダヤ文化とフェミニズム
14. Discussion
15. Review

【成績評価の方法】

レポートを書いていただく。

【使用テキスト】

適宜指示する。

アメリカ文学特殊研究-1(大場) 前期 2単位 大場 昌子

【授業の概要】

20世紀アメリカ小説について、受講生の希望を考慮して個人指導を行う。

【授業の到達目標及びテーマ】

研究結果を論文にまとめ上げ、学内外の研究誌に投稿する。

【授業計画】

1. Introduction: ユダヤ系アメリカ人作家の概観
2. Saul Bellow, *The Adventures of Augie March* の内容
3. Saul Bellow, *The Adventures of Augie March* における語り
4. Saul Bellow, *The Adventures of Augie March* の主な先行研究を読む (1)
Gerhard P. Bach ed., *The Critical Response to Saul Bellow*, Greenwood, 1995.
5. Saul Bellow, *The Adventures of Augie March* の主な先行研究を読む (2)
最新の論文から選んで読む。
6. Discussion
7. Review
8. これまでの研究をもとにテーマを設定し、Presentation
9. Cynthia Ozick, *The Messiah of Stockholm* の内容
10. Cynthia Ozick, *The Messiah of Stockholm* の問題点
11. Ozick の他の作品の概観——*The Shawl*
12. Ozick の他の作品の概観——*The Cannibal Galaxy*
13. Ozick の小説論
14. Ozick についての主な先行研究を読む
15. Discussion

【成績評価の方法】

研究のプロセスを評価する。

【使用テキスト】

Saul Bellow, *The Adventures of Augie March*.

Cynthia Ozick, *The Messiah of Stockholm*.

【参考書(参考資料等)】

必要に応じて、適宜指示する。

【その他(受験生への要望など)】

常に問題意識をもってテキストに接することを心がけてください。

アメリカ文学特殊研究-2(大場) 後期 2単位 大場 昌子

【授業の概要】

20世紀アメリカ小説の研究を、受講生の希望を考慮して行う。

【授業の到達目標及びテーマ】

研究結果を論文にまとめ上げ、学内外の研究誌に投稿する。

【授業計画】

1. Saul Bellow, *Letters* の意義
2. Saul Bellow, *Letters* — 1950年代まで
3. Saul Bellow, *Letters* — 1960年代
4. Saul Bellow, *Letters* — 1970年代
5. James Atlas, *Bellow: A Biography* (2002) との比較
6. Discussion
7. これまでの研究をもとにテーマを設定し、Presentation
8. Review
9. Cynthia Ozick, *The Puttermesser Papers: A Novel* — 内容
10. Cynthia Ozick, *The Puttermesser Papers: A Novel* — 作品構成
11. Cynthia Ozick, *The Puttermesser Papers: A Novel* — ゴーレム
12. Cynthia Ozick, *The Puttermesser Papers: A Novel* — フェミニズム
13. Cynthia Ozick, *The Puttermesser Papers: A Novel* — 先行研究を読む
14. Discussion
15. これまでの研究をもとにテーマを設定し、Presentation

【成績評価の方法】

研究のプロセスを評価する。

【使用テキスト】

Saul Bellow, *Letters*.

【参考書(参考資料等)】

必要に応じて適宜指示する。

【その他(受験生への要望など)】

常に問題意識をもってテキストに接することを心がけてください。

英語学特殊研究-1(藤井) 前期 2単位 藤井 洋子

【授業の概要】

博士課程後期の学生に対して、論文執筆のために必要な仮説の立て方、データ分析の方法、考察の方向性、論理の展開、結論の妥当性を学ぶために役立つ論文集を読み進める。より高いレベルの論文が書けるよう訓練を行う。

【授業の到達目標及びテーマ】

談話分析のデータ収集、方法、論理の展開について深く学び、自身の研究を深めることができるようになる。

【授業計画】

談話分析の方法、考察の仕方、結論への導き方などを習得するために以下の論文を読み進めていきます。院生による発表とディスカッションを中心に授業を行います。発表者はテキストの担当部分に加えて、テキスト以外の参考資料にも当たり、深い理解と背景知識のもとで発表に臨んでほしい。

Week 1	04/09	Ethnopragsmatics: Zhengdao (1)	pp. 127-148
Week 2	04/16	Ethnopragsmatics: Zhengdao (2)	pp. 148-170
Week 3	04/23	Ethnopragsmatics: Hasada (1)	pp. 171-184
Week 4	04/30	Ethnopragsmatics: Hasada (2)	pp. 184-198
Week 5	05/07	Ethnopragsmatics: Ameka (1)	pp. 231-248
Week 6	05/14	Ethnopragsmatics: Ameka (2)	pp. 248-266
Week 7	05/21	Discourse analysis: Martin	
Week 8	05/28	Discourse analysis: Schiffrin	
Week 9	06/04	Discourse analysis: Norrick	
Week 10	06/11	Discourse analysis: Blakemore	
Week 11	06/18	Discourse analysis: Ward and Birner	
Week 12	06/25	Discourse analysis: Myhill	
Week 13	07/02	Discourse analysis: Biber and Conrad	
Week 14	07/09	Discourse analysis: Lakoff	
Week 15		Discourse analysis: Gumperz	

【成績評価の方法】

発表とディスカッションへの参加度合い(20%)、提出物(80%)

【使用テキスト】

Schiffrin, Deborah, Deborah Tannen, and Heidi E. Hamilton (eds.). 2004. The handbook of discourse analysis. Malden, U.S.A: Blackwell.

【参考書(参考資料等)】

なし。

英語学特殊研究-1(松森) 前期 2単位 松森 晶子

【授業の概要】

言語研究の方法(テーマの設定の仕方、仮説の立て方、結論の導き方、論文の書き方、等)について、それぞれの学生に合わせた個別の研究指導を行う。音声・

音韻関係の論文を仕上げることを目的として指導する。

【授業の到達目標及びテーマ】

音声・音韻の論文の研究論文を完成させる。

【授業計画】

第1～15回

個別面接によって指導を行う。授業の進め方は、受講学生に応じて考える。

【成績評価の方法】

面接での準備状況、レポートによる。

【使用テキスト】

それぞれの学生に応じて、論文などを紹介する。

英語学特殊研究-2(藤井) 後期 2単位 藤井 洋子

【授業の概要】

後期も、前期と同様博士課程後期の学生に対して、論文執筆のために必要なデータ分析の方法、考察の仕方、論理の展開、主張の妥当性を学ぶために役立つ論文集を読み進める。より高いレベルの論文が書けるよう訓練を行う。

【授業の到達目標及びテーマ】

談話分析のデータ収集、方法、論理の展開について深く学び、自身の研究を深めることができるようになる。

【授業計画】

談話分析の方法、考察の仕方、結論への導き方などを習得するために以下の論文を読み進めていきます。院生による発表とディスカッションを中心に授業を行う。発表者はテキストの担当部分に加えて、テキスト以外の参考資料にも当たり、深い理解と背景知識のもとで発表に臨んでほしい。

- Week 1 Discourse analysis: Schegloff
- Week 2 Discourse analysis: Heller
- Week 3 Discourse analysis: Polanyi
- Week 4 Discourse analysis: DuBois and Sankoff
- Week 5 Discourse analysis: Edwards
- Week 6 Discourse analysis: Adger
- Week 7 Discourse analysis: Scollon and Scollon
- Week 8 Discourse analysis: Kendall and Tannen
- Week 9 Discourse analysis: Hamilton
- Week 10 Discourse analysis: Cook-Gumperz and Kyratzis
- Week 11 Discourse analysis: Johnstone
- Week 12 Discourse analysis: Chafe
- Week 13 Discourse analysis: Olshtain and Celce-Murcia
- Week 14 Discourse analysis: Tracy
- Week 15 Discourse analysis: Mey

【成績評価の方法】

発表とディスカッションへの参加度合い(20%)、提出物(80%)

【使用テキスト】

Schiffrin, Deborah, Deborah Tannen, and Heidi E. Hamilton (eds.). 2004. The handbook of discourse analysis. Malden, U.S.A: Blackwell.

【参考書(参考資料等)】

なし。

英語学特殊研究-2(松森) 後期 2単位 松森 晶子

【授業の概要】

言語研究の方法(テーマの設定の仕方、仮説の立て方、結論の導き方、論文の書き方、等)について、それぞれの学生に合わせた個別の研究指導を行う。音声・音韻関係の論文を仕上げることを目的として指導する。

【授業の到達目標及びテーマ】

音声・音韻関連の論文を完成させる。

【授業計画】

第1~15回

個別面接によって指導を行う。受講した学生に合わせて、毎回の授業内容を決める。

【成績評価の方法】

面接での準備状況、レポートによる。

【使用テキスト】

学生に応じて、個別に論文を選び、それをもとに指導する。

イギリス文化特殊研究-1 前期 2単位 川端 康雄

【授業の概要】

イギリス文化研究に関して、博士後期課程の学生に対して、研究テーマの設定や方法論、あるいは先行研究の調査などについて、個別指導をおこなう。

【授業の到達目標及びテーマ】

公的学会での口頭発表、公的学会誌での論文の投稿ができるようになる。

【授業計画】

1. 導入。
2. thesis statement の提出・議論。
3. bibliography の提出・議論。
4. Critical Review の提出・議論。
5. Critical Review 改訂版の提出・議論。
6. Outline の提出・議論。
7. Body 1 の提出・議論。
8. Body 1 改訂版の提出・議論。
9. Body 2 の提出・議論。

10. Body 2 改訂版の提出・議論。
11. Body 3 の提出・議論。
12. Body 3 の提出・議論。
13. paper 全体の提出・議論。
14. paper 完成版の提出・議論。
15. まとめ。

【成績評価の方法】

個人指導に際しての議論、提出物によって総合的に評価する。

【使用テキスト】

受講生の研究テーマに応じて適宜指示する。

【参考書(参考資料等)】

受講生の研究テーマに応じて適宜指示する。

【その他(受験生への要望など)】

授業時間の他の時間帯で面談を希望する場合は、事前にメールで相談の上で決める。

イギリス文化特殊研究-2 後期 2単位

川端 康雄

【授業の概要】

イギリス文化研究に関して、博士後期課程の学生に対して、研究テーマの設定や方法論、あるいは先行研究の調査などについて、個別指導をおこなう。

【授業の到達目標及びテーマ】

公的学会での口頭発表、公的学会誌での論文の投稿ができるようになる。

【授業計画】

1. 導入。
2. thesis statement の提出・議論。
3. bibliography の提出・議論。
4. Critical Review の提出・議論。
5. Critical Review 改訂版の提出・議論。
6. Outline の提出・議論。
7. Body 1 の提出・議論。
8. Body 1 改訂版の提出・議論。
9. Body 2 の提出・議論。
10. Body 2 改訂版の提出・議論。
11. Body 3 の提出・議論。
12. Body 3 の提出・議論。
13. paper 全体の提出・議論。
14. paper 完成版の提出・議論。
15. まとめ。

【成績評価の方法】

個人指導に際しての議論、提出物によって総合的に評価する。

【使用テキスト】

受講生の研究テーマに応じて適宜指示する。

【参考書 (参考資料等)】

受講生の研究テーマに応じて適宜指示する。

【その他 (受験生への要望など)】

授業時間以外の時間帯で面談を希望する場合は、事前にメールで相談の上で決める。

アメリカ研究特殊研究-1(島田) 前期 2単位 島田 法子

【授業の概要】

アメリカ研究の分野の研究テーマを持つ受講者に対して、個別の研究指導を行う。

【授業の到達目標及びテーマ】

論文作成に向けて、個々の学生のアメリカ研究における研究分野の知見を深め、論文作成の準備とする。

【授業計画】

年間の授業計画というものをたてず、個々の学生の必要に応じてアポイントメントによって、指導する。

【成績評価の方法】

論文の作成過程と論文の内容による。

【使用テキスト】

なし

【参考書 (参考資料等)】

必要に応じて指示する

【その他 (受験生への要望など)】

なし

アメリカ研究特殊研究-1(白井) 前期 2単位 白井 洋子

【授業の概要】

アメリカ研究を専攻する受講者への個別研究指導を行う。

【授業の到達目標及びテーマ】

それぞれの研究テーマについて、資料収集、研究史の整理、各自の研究の意義と位置付けに基づき、資料分析と論文の構成に重点をおく。

【授業計画】

1. Introduction
2. テーマの設定
3. 研究史の整理
4. テーマと資料の検討
5. Bibliography の作成
6. 分析、解釈、方法論について

7. 個別に細部の検討
8. 資料の再検討
9. 資料分析
10. 論文構成について
11. アウトライン
12. 発表
13. 批判と自己批判
14. 細部の検討
15. 序章、研究史の整理、研究テーマの意義と位置付までの執筆と提出。

【成績評価の方法】

提出された研究論文に基づく。

【使用テキスト】

テキスト

受講者の研究テーマに基づく史資料の検討を含め、個別に指示する。

アメリカ研究特殊研究-2(島田) 後期 2単位 島田 法子

【授業の概要】

前期同様、アメリカ研究の分野の研究テーマを持つ受講者に対して、個別の研究指導を行う。

【授業の到達目標及びテーマ】

前期同様、論文作成に向けて、個々の学生のアメリカ研究における研究分野の知見を深め、論文作成の準備とする。

【授業計画】

前期同様、年間の授業計画というものをたてず、個々の学生の必要に応じてアポイントメントによって、指導する。

【成績評価の方法】

論文の作成過程と論文の内容による。

【使用テキスト】

なし

【参考書(参考資料等)】

必要に応じて指示する。

【その他(受験生への要望など)】

なし

アメリカ研究特殊研究-2(白井) 後期 2単位 白井 洋子

【授業の概要】

アメリカ研究を専攻する受講者への個別研究指導を行う。

【授業の到達目標及びテーマ】

論文作成の完成を目指す。

【授業計画】

受講者の論文執筆の進捗状況にあわせて指導を行う。

1. 進捗状況の確認と今後の計画
2. 論文全体像の確認
3. Chapter の検討
4. 資料分析と論述について
5. Chapter の検討
6. 資料分析、解釈、論述の方法について
7. Chapter の検討
8. 資料の妥当性、論述における論理性について
9. Chapter の検討
10. 資料分析、解釈等について
11. これまでの問題点、残された課題について
12. Conclusion の妥当性
13. 全体の構成の確認
14. 最終稿の確認
15. 完成論文の提出

【成績評価の方法】

提出された研究論文に基づく。

【使用テキスト】

受講者の研究テーマに基づく史資料の検討を含め、個別に指示する。

平成 22 年度 Veritas 賞受賞論文

- 花角 聡美 Ecology of John Ruskin: A Reading of “The Storm – Cloud of the Nineteenth Century”

平成 22 年度 島田賞受賞論文

- 濱口 舞 The Influence of the Victorian Society on Women: a Consideration of the Angel and the Monster in *Jane Eyre*

平成 23 年度 修士論文題目

- 田村 奈央 The Study of Style Shift: A Comparison of Politeness Usage in American English and Japanese Interactions
- 春日 友里 Away from Fables: Samuel’s Own Tragedy in *Free Fall*
- 小林かおり How Do Listeners Participate in Conversation?: A Study of Backchannels in Japanese and English
- 瀬口 侑加 Cultural Continuity in Britain, from the 1980s to the 1990s
- 行川満里恵 Overlapping Talk in Japanese and English Conversations, with Special Focus on Familiarity among Participants
- 矢嶋 瑠莉 The Queen of Hearts: Male Anxieties about Female Power in Lewis Carroll’s *Alice’s Adventures in Wonderland*
- 山原 彩 William Hesketh Lever’s Ideal and Ideas in the Making of Port Sunlight

平成 23 年度 修了論文題目

- 牛山 通子 The Elements of Natural History in Christina Rossetti’s Work
- 川副 理美 Fluidity and Consistency of Speaker’s Viewpoints in Japanese and English Narratives
- 工藤 貴恵 A Comparative Study of Topic Shifts in English, Japanese, and Korean Conversation
- 鈴木 佳那 Discovery of Otherness in Saul Bellow’s *Humboldt’s Gift*